

2013年度授業アンケート結果

白梅学園大学・白梅学園短期大学 FD委員会

はじめに

授業アンケートは、FD委員会が実施し、学生のみなさんが授業についてどのように受け止めているのかについて担当教員に伝えることによって、授業内容をより良いものにしていくことを目的としています。2013年度の前後期に行われた 2回の授業アンケート結果について報告します。

1. アンケート調査の目的

以下の方法で行われています。今年度もこれまで行われてきた方法と同じ方法で実施しました。

- (1) ゼミナール等を除いてすべての授業でアンケートを実施する。
- (2) 各授業担当者には授業後の約 10分間をアンケート記入に当てるように伝える。
- (3) アンケートの回収は事務部門で行い、教員は集計等に関与しない。
- (4) 授業毎に結果を授業担当者に渡し、今後の対応とコメントを求める。
- (5) 学長および教授会メンバーにアンケート結果と、FD委員会の意見を報告する。
- (6) アンケート結果をまとめ、学生に報告する。
- (7) 以上の取り組みをもとに、各種の研修を行う。

2. アンケートの結果と分析

このアンケートは 2002年度から行われていますので、今年度で 12回目になります。結果は図 1にまとめられています。

回答率

アンケートの回収率は上位学年になるほど低下しています。数値は漸減していて、基本的に上がることは稀です。また、前期に比べて後期の回収率もいく分低下しています。これは例年認められる傾向です。

アンケートを繰り返すことで、アンケートそのものに積極的に関与しなくなるということは、アンケート結果に大きな期待をしていない可能性が考えられます。各授業で同じ質問が繰り返されますので、上位学年の学生にとっては、ことさら、アンケートにどの程度意味があるのか実感できなくなっているかもしれません。

また、教員にとっては、例年、余り大きく変化しない結果に慣れてしまい、この結果を積極的に活用しようという意欲に欠けている面があるかもしれません。アンケートを呼び掛ける姿勢にそれが反映し、特に上位学年になる程、回答率が低くなっていることにつながっている可能性があります。

しかし、授業は学生と担当教員の相方でつくり上げていくものです。どちらの立場であっても、その授業がどのように受け取られているのかを知る必要があります。改善点を知らないまま授業を進めても、何をどのように改善してよいのか手掛かりがありません。当然、より良い授業をつくることは期待できません。授業を受ける側の学生にとっては、どのよう

にすればこの授業が分かりやすくなるのか振り返ることで、授業そのものをとらえ直すことも可能になります。

ただし、大学の授業とはどのようなものか理解が進んでいる上位学年の学生については、アンケート以外の方法を導入することも検討していく必要があるかもしれません。さらに、アンケート結果をどのように授業内容に反映していくのか、アンケート結果をどのように活用していけばよいのかなど、次年度はこのあたりについて FD委員会を中心に検討を進める必要があります。

同じ質問を何度も聞かれることは面倒なことです。しかし、学年が変われば担当教員も変わります。当該学期ですぐに良い結果を生むというよりは、次年度に向けて、そして後輩たちのために、建設的な意見交換を行うことで、より良い授業を作り上げていきたいと思えます。学生のみなさんには引き続き授業改善への協力をお願いしたいと思います。

質問項目

今年もほとんどの質問項目で 5段階評価の 4を超えており、数値上は全体としてしっかりとした授業が行われている結果が得られました。今年の特徴は、相対的に低い傾向であった項目 2「授業内容の理解」についても、4を超える学科・学年がほとんどで改善傾向が認められます。

学生の授業に対する取り組みを聞いた項目 8「授業に熱心に参加しましたか」については、今年度も 4を超える高い評価になっています。しかし、項目 9「分からないことは、質問したり調べたりしましたか」については 3点台の学科・学年があり、今年度も相対的に低い結果となりました。

「熱心に参加したが質問ができない」ということは、受動的な姿勢で授業が展開されている結果と受け取めることができます。疑問が一切無く、完全に学習できてしまっているのか、それとも学習内容への踏み込みが不足しており、表面的な理解にとどまっている可能性があるのか、検討の必要がありそうです。これは学生側だけの問題ではなく、授業担当者からの疑問提起や、様々な問い掛け方を授業に取り入れるなどといった、授業運営上の工夫が必要な結果と見ることもできるでしょう。

昨年度も指摘されていた、項目 4「学生の理解度に配慮していたか」については、子ども学科と発達臨床学科で、一部、やや低い評価がありますが、家族・地域支援学科や保育科では高い評価になっています。改善傾向が認められました。

項目 7「成績評価の方法と基準は明確に理解できたか」については、今年度も全体の中では低めの評価となっているところがあります。この項目は自由記述欄でも指摘されることが目立つ内容です。シラバスに明記されている内容ではありますが、授業担当者は課題や試験を行う際に、何が求められているのか、どこまで達成することが求められているのかを明確にしていくことが必要と言えるでしょう。授業内容そのものではありませんので、この点の改善は担当者が心掛けることによって、比較的容易に改善できるものと考えられます。

また、項目 5「声の大きさや言葉づかいは適切でしたか」、項目 6「板書や教材などは見やすかったか」といった授業技法を問うものの結果は、平均的に見ればほぼ 4点を超える評価になっており、全体としては大きな問題にはならないようです。ただし、自由記述欄では、この点について改善を求める声が上がっています。具体的な質問なだけに、改善点を指摘しやすい内容です。それぞれの授業担当者には個別の意見が伝えられています。声の大きさなどは人によって差があることですが、授業の補助機器を利用して、不足する点を補うように、改善の方向に努めていきたいところです。FD委員会としては、この点を補うための教室環境の改善も検討課題といたします。

質問項目間の関係について

1. 授業内容の理解

授業内容の理解を進めるために、どのような点が関連しているのかを調べるために、項目 2「授業全体の内容を理解できましたか」に対する得点と、他の質問項目間の相関を求めました（図 2）。これは学科・学年ごとの結果によって算出したものでありますから、個々の学生の特徴をとらえたものではありません。しかし、授業理解のために全体としてどの点を優先させるべきかを考える上で参考になるでしょう。

最も相関の高い項目は項目 1「毎回の授業の目的が明確で、それに沿って行われていたか」でした（相関係数 0.87）。当然の結果とも言えますが、毎回、学習目的を明確にして、当該の授業で何を学んでもらうかを示しながら授業を進めることが肝要ということでしょう。授業内容は年ごとに毎回大きく変化するわけではありませんが、漫然と語るスタイルではなく、授業担当者は到達目標を意識して授業に臨むことが求められているでしょう。

次に高い値を示したのは項目 5「声の大きさや言葉づかいは適切か」でした。そして、項目 8「あなたは、この授業に熱心に参加しましたか」（相関係数 0.87）、項目 3「教員は授業内容に熱意を持っていたか」（相関係数 0.82）、項目 9「分からないことは、質問したり調べたりしましたか」（相関係数 0.82）、項目 10「新しい知識や技能が得られましたか」（相関係数 0.82）と続きます。

目的を明確にして、はっきりと熱意をもって、学生がこれまで学んだことのない内容を語る授業担当者と、熱心に参加し、自ら調べたり質問をする学生でつくり上げる授業が、理解につながる授業となるのではないのでしょうか。上記の回答率のところでも述べましたが、授業は教員と学生の双方で作り上げるものであることが示されていると結果と思われます。

予想外な結果は、項目 4「学生の理解度に配慮」していたかを問うもの（相関係数 0.31）や、項目 6「板書や教材などは見やすかったか」かを問う質問（相関係数 0.59）でした。一般に FD活動などで重視される授業運営の技術的な側面を問う内容ですが、この得点が高いからといって、授業の理解度が高まるとは言えないようです。自由記述で不満の声として上げられる内容でもありますが、この点だけを満足させることを目的とした授業改善は、労に見合う成果につながる可能性は低いかもしれません。どんなに優れた教材を使っても、教員側からの一方通行の授業では、学生自身が理解に到達するのは難しいことなのかもしれません。

2. 授業の満足度

次に、項目 11「この授業について、総合的に満足していますか」という項目と、他の項目の相関を求めることによって、全体として満足度の高い授業はどのような内容といえるのかを検討しました（図 3）。

授業の理解度が高いことは満足度と高い相関があります（相関係数 0.84）。しかし、それ以上に高い値は、項目 5「声の大きさや言葉づかいは適切でしたか」（相関係数 0.94）、項目 10「新しい知識や技能が得られましたか」（相関係数 0.94）、項目 3「教員は授業内容に熱意を持っていたか」（相関係数 0.90）といった項目でした。熱意を持って、新しい知識や技能を明瞭に伝える授業が満足度の高い授業とすることができるでしょう。

ここでも、項目 4「学生の理解度に配慮していたか」（相関係数 0.36）や、項目 6「板書や教材などは見やすかったか」（相関係数 0.76）は、他の項目に比べて低い値となりました。他の内容を整えた上で、こうした項目についても取り組めばよいと思われます。

以上、授業の理解度と満足度がどのような質問項目と相関が高いのかを見てみると、非常に基本的な姿が浮き上がってくるようです。最新の機器や最上の教室があることは、教員にも学生にも喜ばしいことではありますが、それ以前に整えるべき内容があることを忘れてはならないでしょう。授業を進める側は何を学生に学んでもらうのか、ポイントを明確にし、

学生たちの未知の領域を新旧取りまぜて準備し、熱意をもって伝える必要があるでしょう。

学ぶ側は熱心に参加し、不明なところは進んで質問できるまで学びを深めることが求められていると言えるでしょう。教員と学生との良い相互作用によって、さらに充実した授業づくりを進めていくことができよう、FD委員会では次年度の授業改善活動の計画に取り組む予定です。

3.学生からの要望

アンケートの自由記述欄に書かれた内容は、それぞれの教員に個別に伝えられました。その中で、共通性の高い課題としては、以下のようなものが代表的なものです。

1. 出席カード記入後に退出する学生が多くいるにもかかわらず注意しない。出席管理を徹底してほしい。
2. 点呼での出席確認に多くの時間を費やしている。きちんと授業時間を確保してほしい。
3. レポート等の評価基準が示されていない。レポート課題の告知の際には、評価基準も合わせて示してほしい。
4. 私語を注意してほしい。
5. 授業内容がシラバスどおりではない。
6. 休講が多く、そのための補講が多いために予定が立たずに困っている。
7. 授業期間外の集中講義は困る。

アンケート項目と関連する内容もありますが、出席管理についてはアンケートで問い掛けていなかったもので、これまで授業改善点として取り上げてこられませんでした。しかし、自由記述の中には、教員側というよりは学生側の視点として、しっかりと授業に参加している学生と、途中で退出する学生が同じように扱われているのは納得ができないといった意見が見られました。授業に対する熱意に影響を受けてしまうということです。アンケート結果では、意欲的に授業に取り組むことが授業内容の理解にとって大切であることが示されていますので、この点については、今後、どのように扱っていくのか、検討課題になる内容と言えるでしょう。今年の2月13日の教授会後にこの点について第一回目の教員懇談会を設けて検討を加えましたが、引き続き、2014年度の課題として扱っていきます。

また、評価基準については、シラバスに明記されていても、毎回の課題ごとに学生に伝える必要があることも大切なことでしょう。伝える側は当然理解されていると思っていますが、学習のポイントとなることは繰り返し伝える必要があることが分かります。

さらに、4の私語について例年指摘されていることです。授業担当者に対する不満という以上に、学生同士への不満の声も上げられています。お互いが学びやすい環境を作るために、教員、学生、双方の努力目標としたいことです。

最後に、5-7については教員側の意識改革が求められる内容です。予定の変更はなるべく速やかに学生に伝わるように体制を整えていくことを検討課題とします。

図1-1 アンケート結果

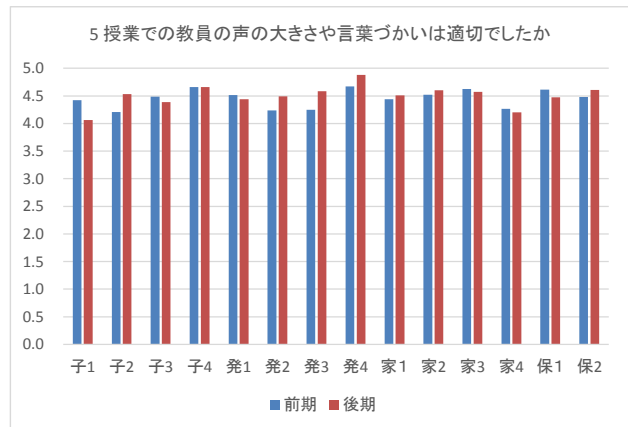
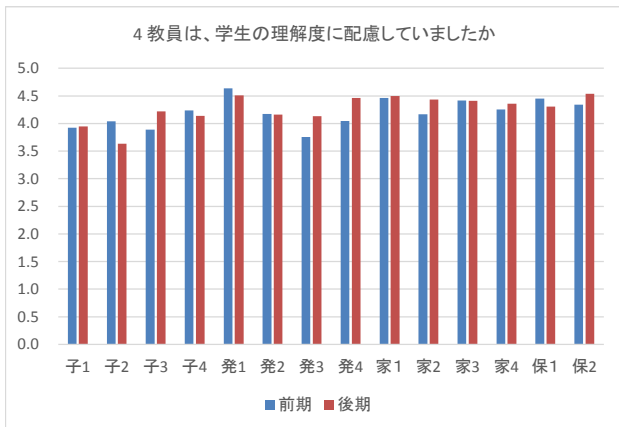
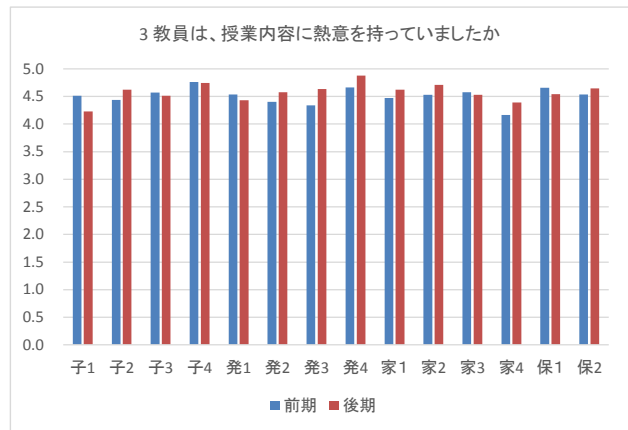
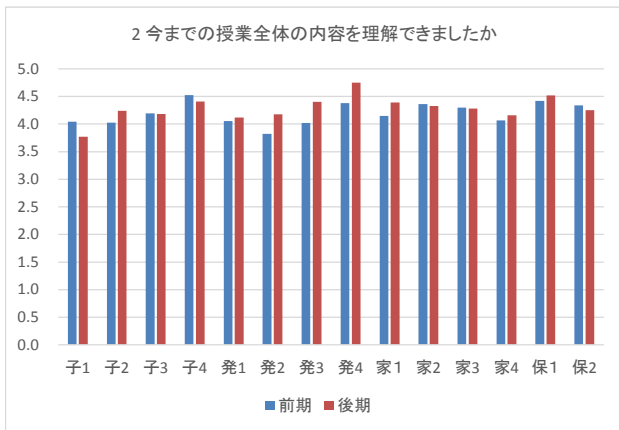
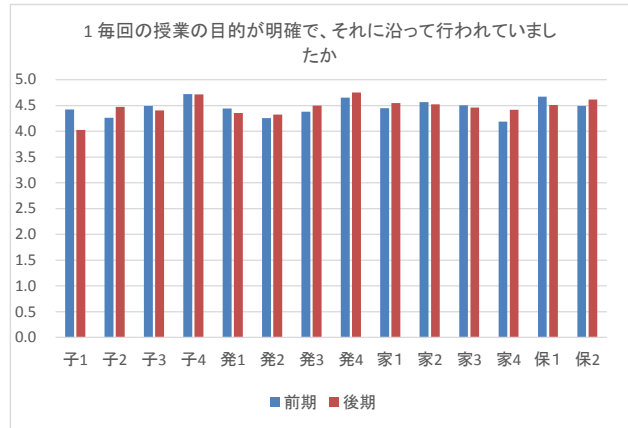
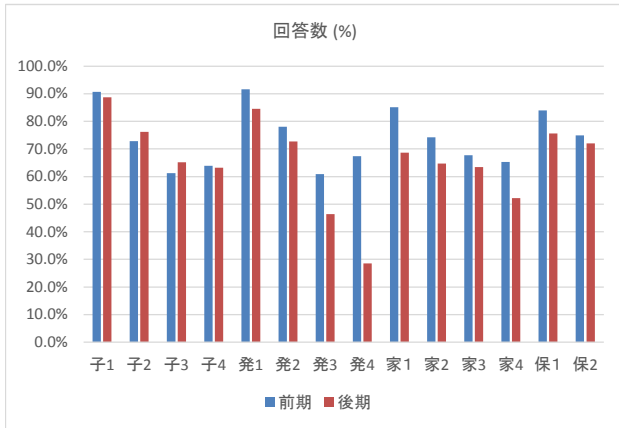


図1-2 アンケート結果

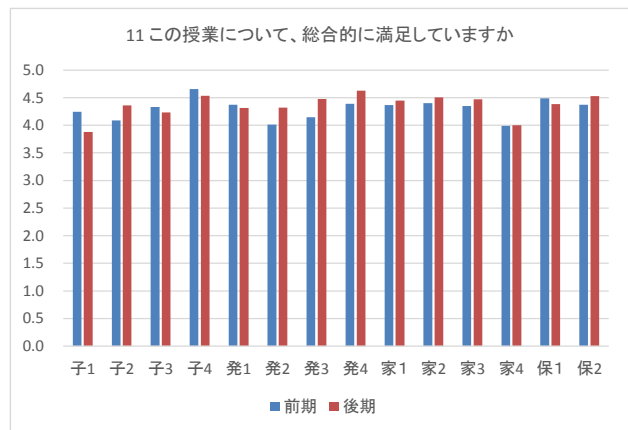
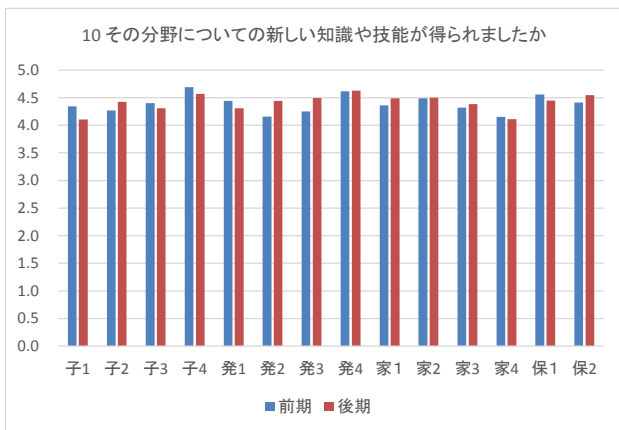
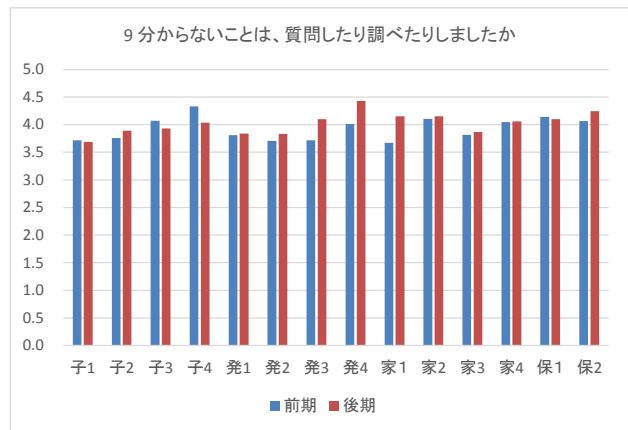
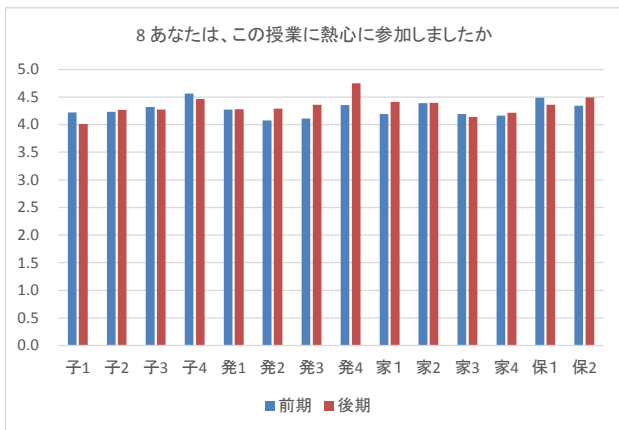
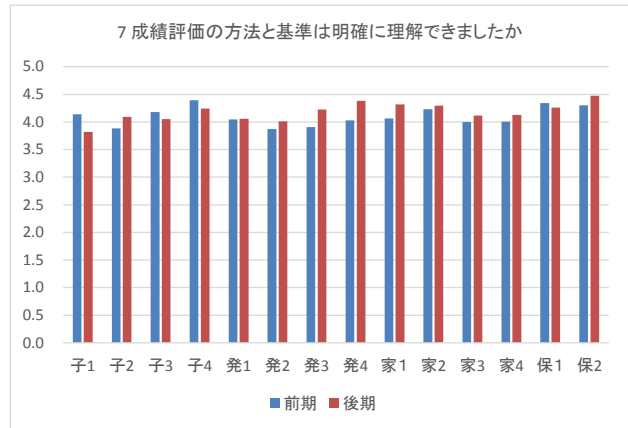
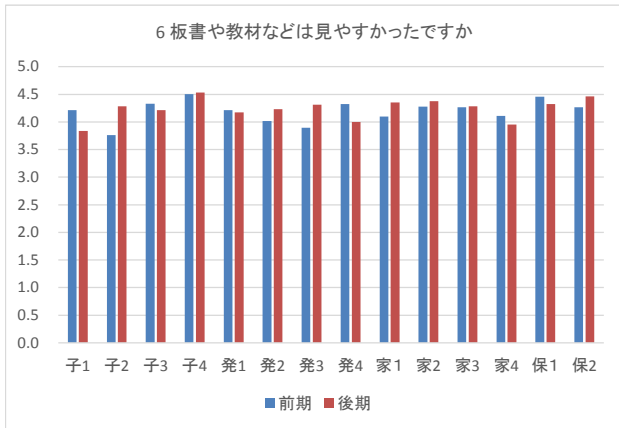
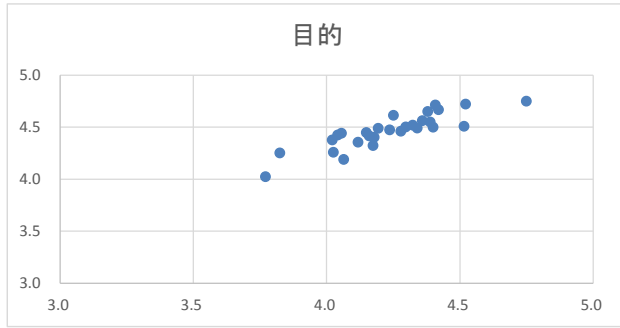
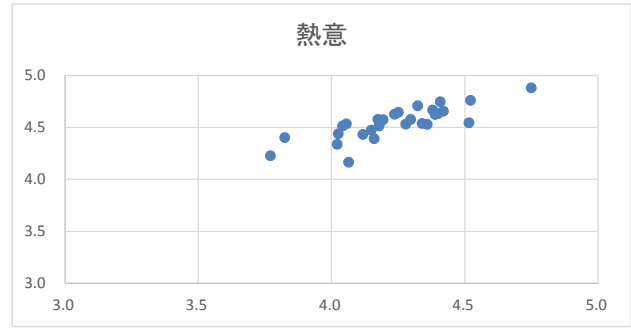


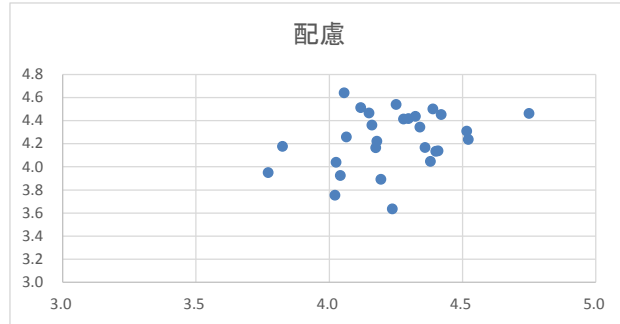
図2-1 「理解度」と他の項目との相関



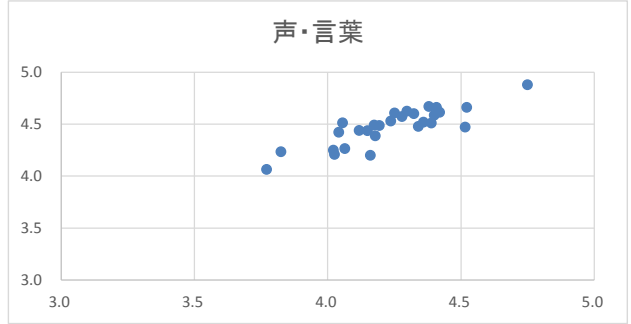
$r = 0.872422$



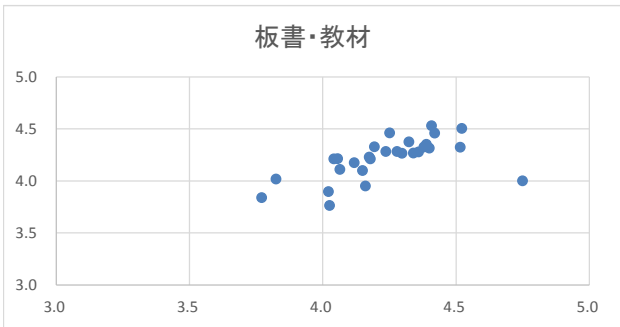
$r = 0.815876$



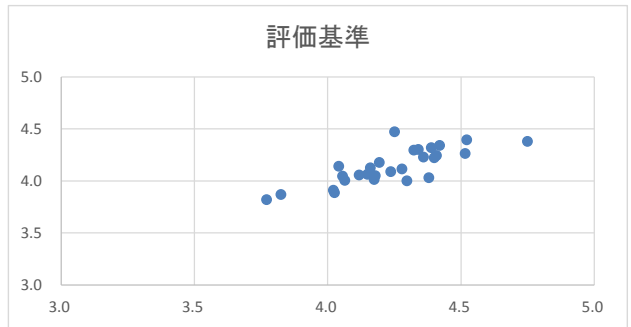
$r = 0.309952$



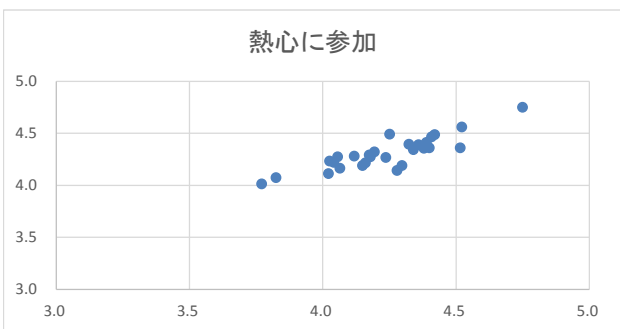
$r = 0.851695$



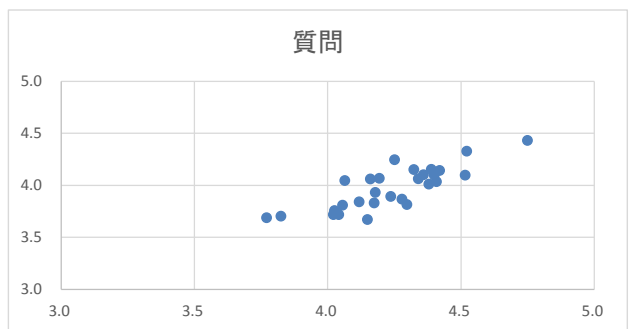
$r = 0.588272$



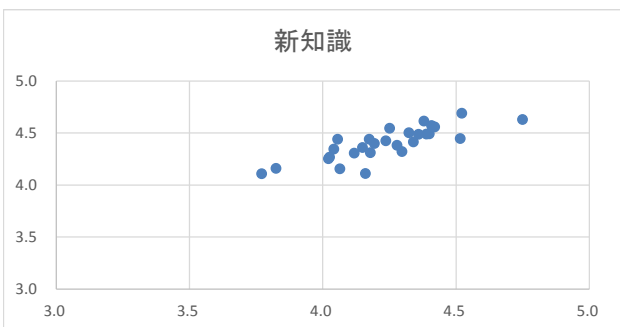
$r = 0.797422$



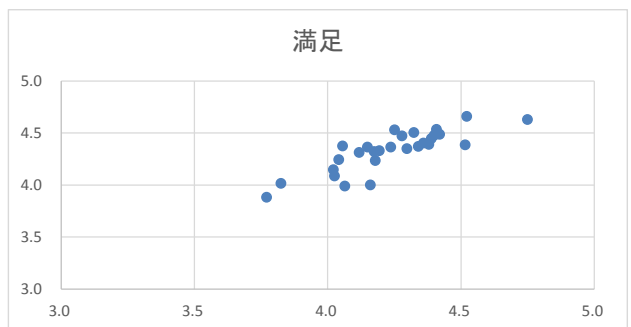
$r = 0.865109$



$r = 0.817157$

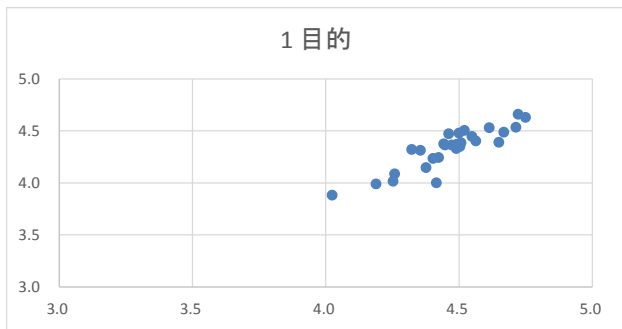


$r = 0.820612$

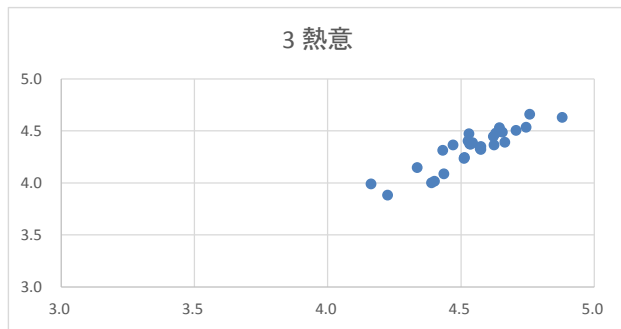


$r = 0.839579$

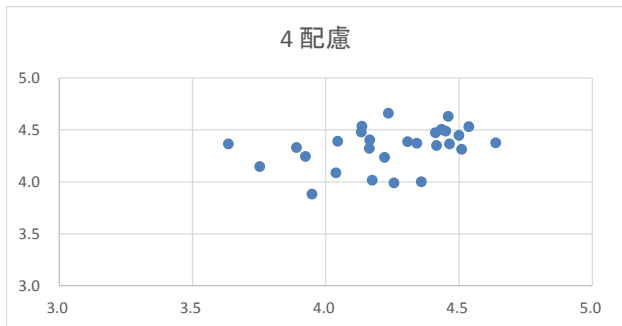
図3-1 満足度と他の項目の相関



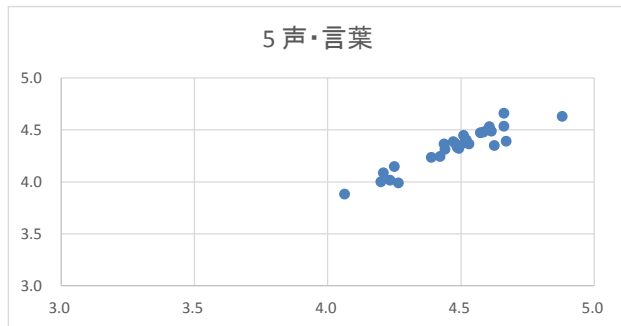
$r = 0.890132$



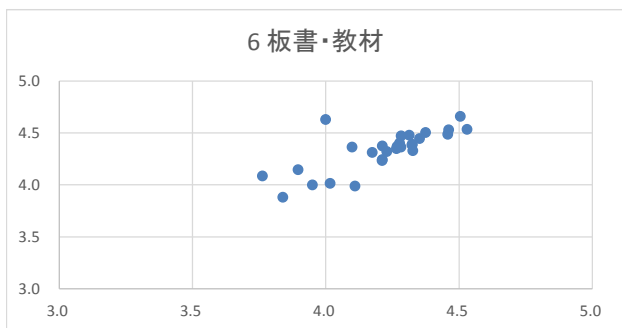
$r = 0.902769$



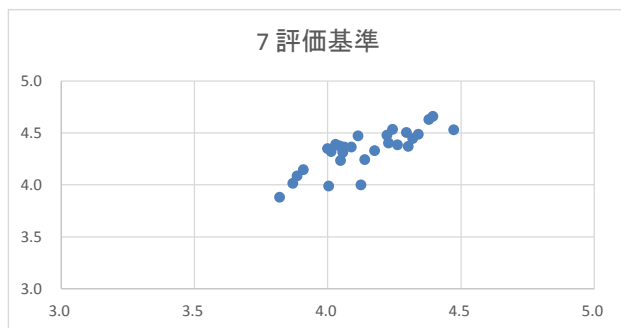
$r = 0.360184$



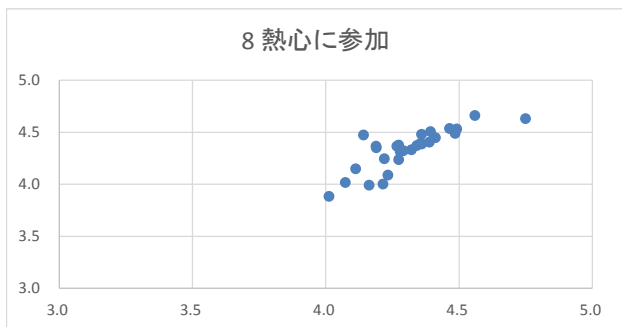
$r = 0.937802$



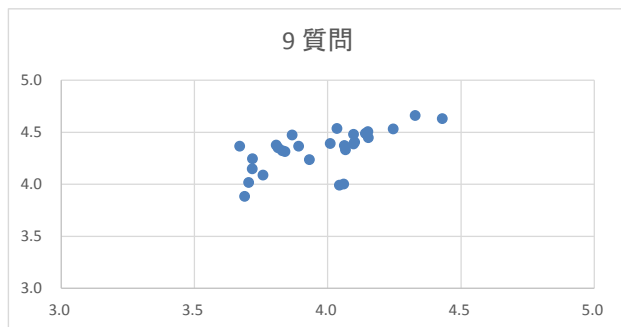
$r = 0.760559$



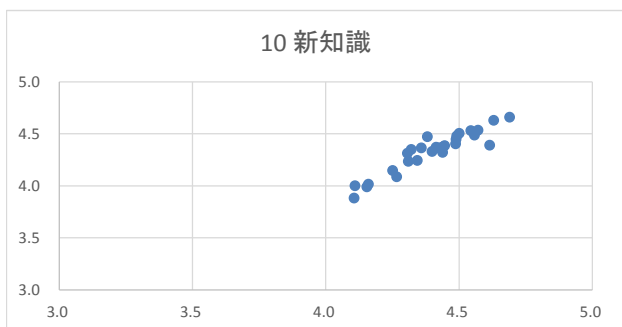
$r = 0.801828$



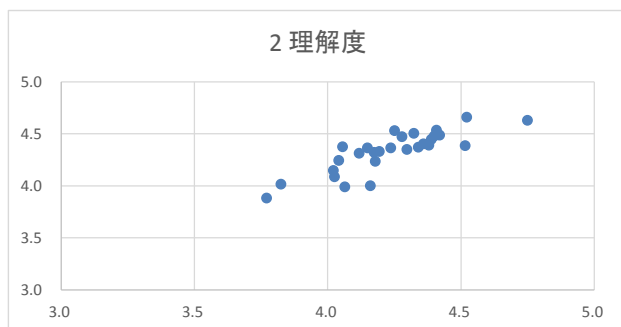
$r = 0.813437$



$r = 0.638564$



$r = 0.937291$



$r = 0.839579$